

学校経営推進費 評価報告書（最終）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立狭山高等学校 全日制課程
取り組む課題	生徒の学力の充実
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間読書冊数の増加 ・ 授業アンケートと学校教育自己診断における生徒の【授業満足度】や、学校教育自己診断における【カリキュラム満足度】などの向上
計画名	<p>さやまアクティブ・ライブラリ</p> <p>～読書活動の推進が、「狭山生を、自ら学び行動する生徒」へと育成する～</p>

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1 さらなる学力の向上及び進路の保証</p> <p>(1) 生徒が主体的に学べる充実した授業の実現に取り組む。</p> <p>(2) 個々の進路希望を実現する新カリキュラムによる学習指導を進め、家庭学習指導、個別指導の充実を図ることにより、進路の保証に結びつける。</p> <p>2 キャリア教育のための環境づくり</p> <p>(1) 自立・自律した人間として、将来の生き方を考えることができるプログラムを展開する。 エ 読書活動を推進する。</p>
事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本を身近なものとして、読書活動を習慣づける。 ・ 読書活動を本校の教育活動の中心であるアクティブラーニングと接続させ、課題を主体的に解決する力をいっそう向上させる。 ・ ICT の活用によるデジタル情報の送受信は言うまでもなく、読書活動を通じてアナログな資料批判の力をつけることによって、どのような場面でも自分の意見を持ち、説得力のある自己表現を可能とする。 ・ 上記の取組みにより、 <ul style="list-style-type: none"> (1) 平成 27 年度に比して平成 30 年度には学校教育自己診断における生徒の【授業満足度】を 75%に、【カリキュラム満足度】の 75%超えをめざす。 (2) 授業(総合学習含む)での学校図書館の利用率を上げる。 (3) 図書資料の年間貸し出し冊数を 2900 冊以上にする(平成 26 年度 879 冊、27 年度 1451 冊)。
整備した 設備・物品	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブックトラック(30 台/各教室及び図書室) ・ 調べ学習に使える一次資料の購入 ・ 大判プリンター(1 台/司書室) ・ 推薦図書ブックレット発行(1000 部)
取組みの 主担・実施者	<p>主 担： さやまアクティブ・ライブラリチーム (略称：sal 継続的な進化を象徴する)</p> <p>取組みの実施者： チームさやま(狭山高校全教職員)</p> <p>協 力： 大阪府立中央図書館、大阪狭山市立図書館、狭山池博物館</p>

<p>本年度の 取組内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校図書館の運営に図書委員を参画させ、生徒の主体的なキャリア意識の形成を促す。 ・ 各教科の授業において、図書資料を活用した協同学習、能動学習を展開し、自ら考え、表現する力の育成を図る。 ・ 読書する習慣を定着させると同時に、マイメモリーを読書活動の成果として生徒の読書活動にフィードバックする。 ・ プレゼンテーション能力と傾聴力の涵養のため、ビブリオバトル大会を実施、校内勝ち抜きチャンプ本を決定する。 ・ 大阪狭山市立図書館との連携を強化し、互いの施設、人的資源の利用を図る。 ・ 百人一首大会（1年）、英語暗唱大会（1年）英語スピーチ大会（2年）の実施。 ・ 図書館通信（クープ）を継続的に発行し、図書委員にクラスの読者活動を牽引させた。 ・ 修学旅行先の北海道について調べ学習を行い、その発表に大型プリンターを活用した。 ・ 外部講師による生徒向け講演会に大型プリンターを活用した。
<p>成果の検証方法 と評価指標</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 年間貸し出し冊数。 ② 生徒の授業アンケートにおける「授業に、興味・関心を持つことができたと感じている」「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている」 ③ 学校教育自己診断の結果：【授業満足度】。 ④ マイメモリーの内容評価 ⑤ ビブリオバトル等、文化的行事への参加の様子。 ⑥ 図書館使用状況の変化
<p>自己評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 年間貸し出し冊数：平成 28 年：1591、平成 29 年：1107、平成 30 年：1216 であった。 (△) 身近にあるブックトラックから資料を見ることが可能となったため、2年めには冊数がむしろ低下する事態が起きた。初年度の増加が大きかったため、2年めで低迷したが、最終年度は生徒数の減少があるなか、若干の復活があったが当初の予定に届かなかった。 初年度に整えられた設備を活用し、読書活動が日常化した。各教室、職員室、保健室、食堂などに配置したブックトラックには、各所に適した内容の本を精選し、本と出会う喜びを増やすことができた..... (◎) ② 生徒の授業アンケートにおける「授業の工夫度」についての生徒の肯定的意見は、推進費活用以前の 27 年度と比較した時、8%の増加があった。..... (○) ③ 学校教育自己診断の結果：【授業満足度】で 2.9%の増加があった。..... (○) ④ マイメモリーの内容評価 読書活動の多様化がマイメモリーからうかがい知ることができた。..... (○) ⑤ ビブリオバトル等、文化的行事への参加の様子。 ビブリオバトルについては、クラスを勝ち抜いたチャンプ本の決戦を近隣のホールで行い、ビブリオバトル普及委員会に司会をお願いし、スムーズな運営を行なうことができた。 (◎) 学校代表が、ビブリオバトル大阪大会で決勝戦に勝ち残ることができた。..... (○) ⑥ 図書館使用状況の変化 図書館を活用した授業も増加し、新たに取り組む教員も出現した。図書資料に囲まれた中で学びを深めることで、読書活動を日常のものとすることができた。..... (○)
<p>事業のまとめ</p>	<p>読書活動は個人の内面的活動であるという固定した観念を破り、読書活動がコミュニケーションを生み人と人、人と組織を結びつけるツール足りうることを、本校の教育活動を通じて意識化させ、定着発展させてきた。そのために、読書活動の推進を本校だけのものではなく、外部との連携のなかで進め、地域の社会教育施設や学校園との連携によって、生徒のキャリア意識の形成と、地域の読書力そのものの向上を図った。図書室のアウトリーチとしてのブックトラックの設置は、狭山高校の特色のひとつとして学生生活に溶け込んでいる。</p> <p>今後は図書資料の精選を行い、生徒の求める本だけでなく生徒に出会いの喜びをもたらす本を配架できるように図書委員を育成する。</p>

読書の記録としてのマイメモリーを、読書傾向をはかる装置として活用し、本との出会いを演出するだけでなく、タイムマネジメントによる読書時間の増加を今後の課題としたい。

ビブリオバトルは本校の取組みとして定着したが、今後は地域の諸学校と連携するなかで、アニメーションや絵本の広場とともに読書活動を地域に広めていきたい。読書活動を基盤として、百人一首大会や英語スピーチ大会、コーラス・コンクールなどの文化的活動も活性化したが、本との出会いがより深い学びにつながるよう、教職員の授業スキルの向上も図っていく。